

くにみっ子の学びを 一緒に考えてみませんか？

町では、社会の変化に対応した子どもたちの育成、ICT環境の充実、そして未来を生きる子どもたちの「生きる力」の育成をめざし、「くにみ学園基本構想」を策定します。子どもたちのために、今、大人ができることを——。くにみっ子の学びを、一緒に考えましょう。



国見町は、平成26年から「ミニニティ・スクール」を基盤に「国見の子は一つ」を願い、保育所・幼稚園・小学校・中学校を一つの集まりとして「国見学園」と呼び、「自ら学び、心豊かでたくましく、郷土を愛する国見の子の育成」に取り組んできました。そして今も、子どもたちの「なりたい」を応援するため、保幼小中の学びをしっかりとつなぎ、ふるさとを学び、子どもと地域のつながりを創ることを、学校・家庭・地域が一体となって進めています。

一方、社会は私たちの想像を超えて変化し、子どもたちの学び、学習環境が大きく変わっています。これからの、子どもたちの「生きる力」を育み、ふるさとを想い、記憶に残る学びを届けるために、「くにみ学園基本構想」の策定に取り組みます。

基本構想策定に向けて、第1回くにみ学園基本構想策定委員会を開催しました。

町民に対し、丁寧に説明を

くにみ学園基本構想策定委員会委員には、学識経験者、保護者、教育関係者など10人を委嘱しました。

会議では、町の教育の現状と課題を説明したあと、これまで開催したワークショップでの意見も提示し、基本構想に「反映すること」しました。

委員からは、「これから新しい学校・子ども園を創ることへの期待」「町民にしっかりと説明し、理解を得て進めてほしい」との意見をいただきました。



—カリキュラム・環境—

- 「くにみ学園」の代名詞になるようなカリキュラムが欲しい。「デジタル」と「自然」の融合ができれば。
- 「生きる力」はまず「食べること」が大切。おいしく食べることも基本に食育の検討を。
- 学校へ行けない子、集団の中で生活が難しい子もいる。大人のサポートにより社会で自信を持って生きていけるような育てをしたい。
- 大人の価値観は勉強ができることが正義。しかし、社会に出るとさまざまな価値観で評価される。大人の価値観をどう変えられるか。
- 15年間同じ仲間と一緒にいることは、もし、いじめがあった場合に逃げ場が無くなるのが心配。

—地域との連携—

- 地域連携・協働は実際には難しい。学校にコーディネーター役をきちんと配置するべき。
- 子どもたちが地域に関わる中で、力をどう伸ばしていくのか、どういう生き方をしていきたいのか、自己実現をどう行っていくのか両立が大切。
- 地域課題を見つけ、解決するためには「探究の学習」が必要。子どもたちが地域と密に関わらないと課題も見えてこない。

第1回くにみ学園基本構想策定委員会の意見

—開園までのプロセス—

- 話し合いのプロセスを子どもたちに見せたり聞かせてあげたい。自分たちのことを語ってくれている大人たちの姿は、子どもたちにどのように映るのか。過程そのものが、さらに有意義なものとして可能性が膨らむと思う。
- 「くにみ学園」について、しっかりと町民に説明してほしい。

—学園への期待—

- 子どもは一人ひとり光っているものがある。光を磨いてあげること、「くにみ学園」はそれができると思う。
- 学校が新しくなることはうれしい。加えて「くにみ学園」だからできる子育て、教育を発信してほしい。
- 先生方も一生懸命で安心して子どもを預けられている。「くにみ学園」も安心して信頼できる学園になってほしい。
- 高校、大学、社会人になると町外へ出てしまう。その子が親世代になった時、「くにみ学園」で教育を受けさせたい、そう思える学園になってほしい。



「くにみ学園基本構想」の令和4年度内の策定に向けて、引き続き委員会で議論していきます。

また、子どもたち、保護者の皆さま、地域の皆さまからも意見を集約できるよう、これからシンポジウムやワークショップなどを開催していきます。

子どもたちのために、「子どもたちを真ん中に」した検討をしていきたいと考えています。

今、私たちができること、くにみっ子の学びを一緒に考えましょう。